

引地上切B遺跡

所在地 豊田市下山田代町引地上切地内

(北緯 35 度 1 分 2 秒、
東経 137 度 18 分 32 秒)

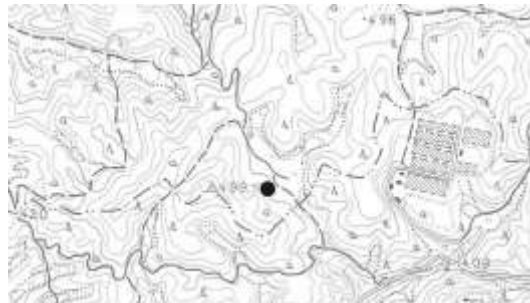
調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成
事業

調査期間 平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月

調査面積 400 m²

担当者 三輪みなみ・鵜飼雅弘

調査の経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は保久川の支流、上沢尻川に北北西から流れ込む沢の右岸、東に開口する小規模な緩斜面に立地する。調査前の状況は、杉・檜を植林した山林である。標高は海拔 442～445m、調査面積は 400 m²である。遺跡の北北東に引地上切 A 遺跡、南南西に引地上切 C 遺跡が所在する。

調査の概要 調査では、暗褐色土・黒褐色土を遺物包含層として掘削した。遺構検出の結果、溝及び土坑、ピットを検出したが、遺構のほとんどは調査区北半に分布し、調査区南端ではまばらとなる。0010SD は北から南に向かってやや湾曲し、南端で東に屈曲しており、おそらく斜面上位からの雨水を排水するために構築されたものと考えられる。また、0010SD の下方で土坑 2 基 (0007SK、0026SK) を検出した。調査区中央では、平行する複数の溝 (0003SD、0013SD、0015SD、0020SD) を検出した。形状から畑の畝の可能性が高い。

この他に、炭焼窯に伴う土坑を 2 基 (0001SY、0002SY) 検出した。このうち、0001SY の埋土からは近世後半以降の磁器碗が出土した。

遺物の大半は暗褐色土から出土した。石鏃、灰釉陶器、山茶碗、青磁、土師質土器に混じり、近世以降の陶磁器が出土したことから、暗褐色土の堆積時期は比較的新しいことが判明した。遺物は黒褐色土からも出土したが、少数にとどまった。また、0001SY を除き、遺構埋土からの出土はなかった。

まとめ 出土遺物は石鏃を除き、中世に属するものが大半である。しかし、遺構から遺物が出土しなかったため、遺構の構築時期を示す根拠は乏しい。隣接する引地上切 A 遺跡・引地上切 C 遺跡では古代及び中世の遺構・遺物が出土しており、両遺跡から持ち込まれた可能性も考えられよう。現況の遺構の在り方としては、生活の場というよりも、畑のような生産域を想定するのが妥当と考えられる。

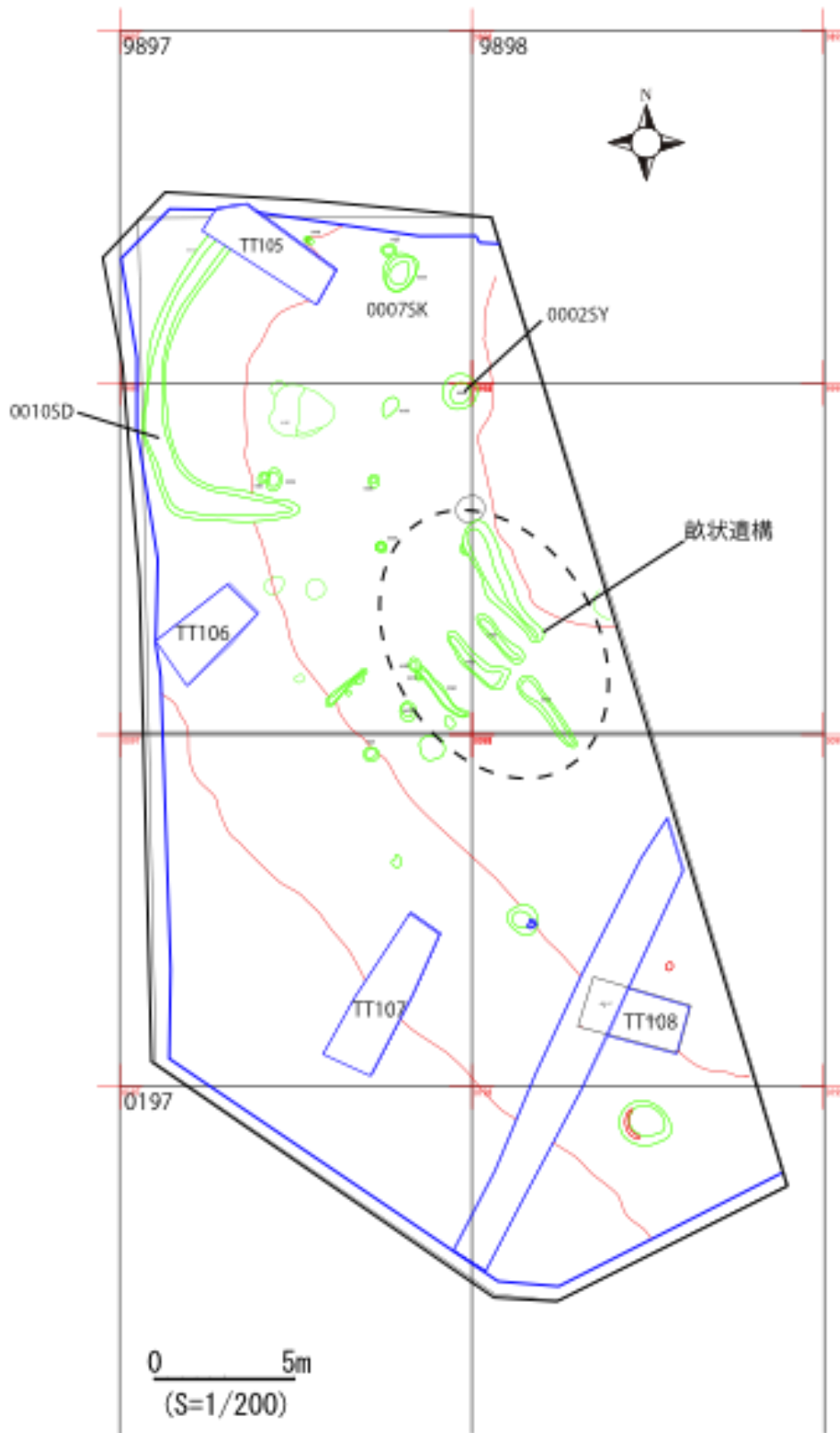
いずれにしても本遺跡は、引地上切エリア全体の遺構・遺物の在り方を検討する中で評価していく必要がある。
(鵜飼雅弘)



調査区位置(S=1:1,000)



遺跡全景 (東から)



主要遺構図(S=1:200)



調査前全景 (南から)



0001SY



堆積状況 (東西ベルト)



北壁



0010SD 検出



0026SK



畝状遺構



石鏃出土状況